



Annual Report 2012 → 2013

<年次報告書>

挑戦の伴走者に、熱意のつなぎ役に
G-net NPO法人 G-net



代表挨拶

03年にNPO法人化してから今年で11年目、04年に開始したインターン事業は10年目を迎えました。これまで本当に多くの方々から、時に厳しく、時にあたたかい声とともに、支えられ、応援をいただいて、ようやくここまで来られたのだと、あらためて感じています。

インターン事業は、これまでの積み重ねに加えて、安倍政権の成長戦略や産業競争力会議により大学生らのキャリア形成の一環としての長期実践型インターンシップの推進・強化が明示される(※1)という追い風を受け、全国の大学等教育機関だけでなく、金融機関や行政といった中小企業支援を担う機関からも注目を集めております。特に、岐阜という地域で実施していることも、全国で唯一地方都市にて自立事業として成果を出している先進事例として、注目を集めています。

昨年度から取り組んできた愛知県岡崎市での長期実践型インターン導入は、この夏いよいよ本格的に始動。3社で4名の大学生が、半年間のインターンシップをスタートしています。これから訪れるであろうインターンシップに対する大きな波に巻き込まれることなく、学生にとっても企業にとっても有意義なプログラムを維持していくため、他地域での導入に対する早急な支援体制のサービス化が求められるとともに、夏休み・春休み期間内で完結する1か月集中型の「地域協働型インターン」プログラムについても、岐阜県内大学との連携にとどまらず、より多くの学生・企業・大学に参画をいただくことを目指します。

一方で、インターン経験者の大学卒業生数が毎年、年間50名以上となる今後は、彼らのネクストステップにも地域の課題解決や、主体的に取り組める場の提供をしていくことが、真に地域を活性化するためのひとつの打ち手であると考えています。インターンを通してつながった若者と経営者のつながりを、チャレンジという共通項でより強固にしておくために、G-netが作るコミュニティの重要性を自覚し、育ててまいります。

同時に、白書といった形で地域や若者を取り巻く課題研究をすすめ、若者と地場産業、シゴト...といった分野での専門家としての地位を確立していきます。

1年1年があつという間に過ぎていきますが、振り返ってみると、様々なヒトやコトとの出会いをいただき、またそのどれもがなくてはならないものだったのだと気づかされます。これまで、多くの方々にお世話になり、支えていただいたからこそ、ここまで走り続けてこられたのだと、実感しています。

どんな若者、どんな企業を育むことが
真に岐阜を、地域をよりよい形に変えていくのか。

地域のみなさま、大学・教育機関のみなさま、経営者のみなさま、そして学生のみなさまの、どんな課題を解決するためにお役に立てるのかをあらためて自らに問い直し、これからもより一層のチャレンジを重ねていこうと、気持ちを新たにしています。

本日も、そしてこれからも、チャレンジすることが何よりも尊いという想いを胸に、チャレンジする若者と、チャレンジを応援するオトナや経営者をつなげるため、G-netは伴走者として走り続けます。そんなG-netをどうぞ皆様で支えていただき、そしてぜひ、一緒にチャレンジを！

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人G-net
代表理事 秋元 祥治

※1

日本再興戦略...インターンシップに参加する学生の数の目標設定を行った上で、地域の大学等と産業界との調整を行う仕組みを構築し、インターンシップ、地元企業の研究、マッチングの機会の拡充を始め、キャリア教育から就職まで一貫して支援する体制を強化する。また、関係団体等の意見を踏まえつつ、インターンシップの活用の重要性等を周知し、その推進を図る。
産業競争力会議...企業の採用活動開始時期を3年生後期試験終了後にすると同時に、中長期インターンシップを大学教育において単位として位置づけた上で普及促進。

G-netのロードマップ

第一フェーズ 主体者

トークライブ
カウントダウン GIFT
ビーンズフェスタ
フリーペーパー

- ・01年10月 期間限定団体(6ヶ月)として立ち上げ
- ・トークライブイベントを定期開催
- ・「カウントダウンイベント」を開始(01~04)
- ・「ビーンズフェスタ」を開始(02~07)
- ・03年5月 NPO法人格取得
- ・フリーペーパー「ORGAN」・「Beans!」(03~07)



ビーンズフェスタ2002

第二フェーズ 伴走者としての挑戦

ホンキ系インターン
U・ターン支援

- ・経産省/チャレンジコミュニティ創成事業採択(04~06)
- ・「ホンキ系インターン」事業開始(04~)
 - ・岐阜信用金庫との連携開始(06~)
 - ・岐阜大/四日市大/日本福祉大等 授業開始(07~)
 - ・三重県庁「東紀州事業」開始(08~11)
 - ・地域若者チャレンジ大賞 大賞受賞(10)
 - ・愛知県庁と連携した愛知県内展開 開始(10~11)
- ・地域協働型インターン事業開始(10~)
- ・岐阜県「U・ターン促進事業」協働開始(04~06)
- ・若者向け「ゲツベン」「経営者セミナー」開催(06~)
- ・学生部「3charge」発足(09~)



カウントダウン GIFT

月曜セミナー
学生部創設



ORGAN

創業・独立支援
かけたす・東海若手起業塾

- ・経産省/創業支援フォーラム・創業塾開催(06~)
 - ・各務原商工会議所(08~)
 - ・岐阜商工会議所(09~)との連携 等
 - ・社会起業フォーラムの開催(08)
 - ・一般社団法人SRプラットフォーム参画(11)
- ・インキュベーションオフィスかけたす(07~09)
- ・ブラザー工業協賛「東海若手企業塾」(08~)
 - ・岡崎市ソーシャルビジネス支援事業(11-)



チャレンジするヒトを応援したい

第三フェーズ コミュニティづくりへの挑戦

つながりコーディネート
コミュニティづくり

- ・経産省「新連携」「地域資源活用プログラム」等採択(06~)
- ・創業希望者と既存事業者のマッチング支援開始(07~)
- ・経営力向上にむけ理事会改組(09)



地域若者応援ファンド

重層的な
若者支援

- ・東日本大震災復興支援活動(11-)
- ・岐阜大学「学生ボラネット」開設(12-)
- ・賛助会員制度の発足(10)
- ・地域若者応援ファンドの新設(12-)

地域に根差し
地域で活躍する
若者の育成

- ・若者と企業と地域のための研究所 設立(12)
- ・『岐阜「中小企業と若者」就職白書』発行(12-)
- ・「日本仕事百貨」との事業提携締結(12-)
- ・『キミはまだ99%の会社を知らない
~オモシロ中小企業26選~』発行(12)
- ・若者が選ぶ魅力的な会社100選 事業開始(13)
- ・マイナビ 代理店契約締結(13)



中小企業の魅力発信

G-netの事業戦略

■G-netミッション

地域へ愛着をもち、地域課題の解決に主体的に取り組んでいく人材育成を通じ地域活性化をめざす。

- ・地域内で育成した人材が、県外への就職を機会に流出。地域を担う人材の育成定着が必須。
- ・学生が在学中に地域に根差した魅力ある中小地場産業や、地域社会との接点が希薄。

G-net の取り組む打ち手

行政や他団体との連携



- ・【新卒】逆指名型就職フェア
若者が選ぶ魅力的な会社100選
- ・【中途】日本仕事百貨
マイナビ転職
- ・【創業】地域若者チャレンジファンド

- ・長期実践型インターン

- ・地域協働型インターン
H22.23年度と内閣府受託事業
H24年度より岐阜大で単位化

- ・学生ボラネット推進協議会
- ・学生部「3charge」

- ・複数企業取材型インターンシップ
- ・大学と連携した授業プログラム
- ・中小企業を招いたキャリアセミナー

- ・(財)岐阜県産経センター事業として実施
- ・県事業として実施。県信協、商工会との連携
- ・H24夏より、事業提携し実施
- ・H25より、代理店契約締結
- ・岐阜県、経済団体(岐阜県域)と連携

- ・岐阜県「産業振興ビジョン」での推進明記
- ・内閣府「若者雇用戦略」への明記
- ・岡崎市/尾鷲商工会議所、他地域支援

- ・岐阜県との連携、大学での単位化
- ・大学コンソーシアム連携事業として実施

- ・ぎふNPOセンター/岐阜県/岐阜大学と連携
- ・大学コンソーシアムでの連携事業として実施

- ・協働/連携したプログラム実施
- ・岐阜県や大学、中小企業との連携実施

■事業実施のポイント

意欲ある人々のチャレンジを支援し 共感を呼ぶ成功事例を創出し、挑戦を誘発していく

■G-netの存在意義は？

- ・地域であり、地域産業を担う主体的/自律的な人材を育む仕掛けや、取り組みが必要だ。
- ・大学の、真に地域に開かれ、社会に有用な人材育成の場への転換は、我々が担うべき役割だ。
- ・都会より地域、大企業より小企業、衰退より革新・・・、新たな社会での生き方像を示し、ひっくり返す存在へ。
- ・本当に地域を変えていくことにこだわる。
- ・「活動すること」でなく、変革をし、成果を上げることにこだわりきる。

2012年度事業 概況

■ 収支

収入 52,216,742円 (前年度: 56,805,602円 前年度比:91.92%)
 支出 51,887,956円 (前年度: 55,332,103円 前年度比:93.77%)
 収支差 328,786円 (前年度: 1,473,499円 前年度比:22.31%)
 正味財産 770,316円

自主財源47.37%、行政委託51.6%、補助・助成 0%、その他 1.01%

※小数点以下第三位切り捨てのため、合計が100%になっておりません。

■ インターン事業

売上 27,185,673円 (前年度: 47,817,961円) (売上に占める割合:52.06%)
 長期実践:マッチング件数 のべ20社(前年度:23社) 44名(前年度:42名)
 地域協働:マッチング件数 のべ19社(前年度:23社) 41名(前年度:45名)
 フェア・説明会参加学生数 540名(前年度:465名 前年比:+75名)
 ー岐阜県実践型インターン事業受託

■ 創業・中間支援事業

売上 10,447,786円 (前年度: 1,715,463円) (売上に占める割合20.00%)
 主要事業:市民ファンド創設支援事業

■ 就職・採用支援事業

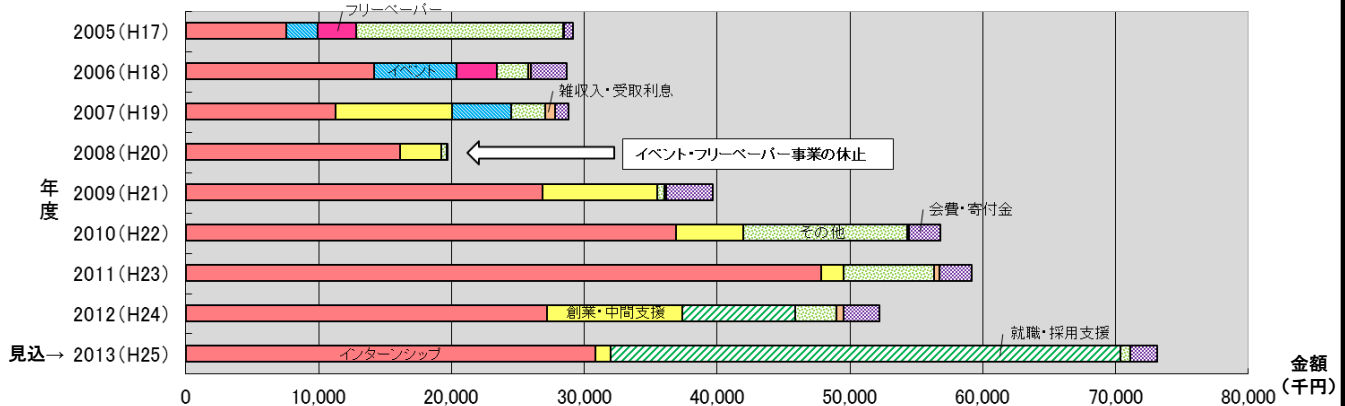
売上 8,518,800円 (前年度: 0円) (売上に占める割合16.31%)
 主要事業:岐阜県中小企業魅力発信事業

■ その他の事業

売上 3,095,220円 (前年度: 6,825,640円)
 主要事業:ファンドレイズイベント

■ 全体 収入の構成推移

収入内訳の推移



	2013 (H25)	2012 (H24)	2011 (H23)	2010 (H22)	2009 (H21)	2008 (H20)	2007 (H19)	2006 (H18)	2005 (H17)
■ インターンシップ	30,850,693	27,185,673	47,817,961	36,891,831	26,880,211	16,128,726	11,254,835	14,162,252	7,524,463
■ 創業・中間支援	1,107,696	10,165,734	1,715,463	5,077,596	8,584,174	3,104,047	8,778,841	0	0
■ 就職・採用支援	38,397,928	8,518,800	0	0	0	0	0	0	0
■ イベント	0	0	0	0	0	0	4,467,603	6,210,613	2,420,926
■ フリーペーパー	0	0	0	0	0	0	0	3,014,300	2,870,850
□ その他	724,697	3,095,220	6,825,640	12,353,154	548,046	432,190	2,580,716	2,387,915	15,605,987
■ 雑収入・受取利息	0	531,133	386,873	155,322	120,967	9,181	735,615	172,788	52,453
■ 会費・寄付金	2,079,500	2,720,182	2,393,768	2,328,030	3,533,769	0	999,475	2,713,600	654,116

ホンキ系インターンシップ

長期実践型インターン事業は堅調。差別化に向けてコーディネート の質向上へ注力。

12

29

社

受入企業
(のべ)

28社

44

名

インターン
学生数

42名

17

大学

授業等
連携大学

10大学

- 大学向け勉強会の開催、学内説明会など大学との連携進む。
 - ー大学教職員向け勉強会の開催。
 - ー複数大学にて学内説明会の実施。授業内告知等協力教員も増加。
- 企業
 - ー継続的な受入れを行うリピート率の向上。
 - ー企業向け勉強会の定期開催。
- 学生
 - ーハタモク、グロービスなど外部団体との連携による学生募集の母集団拡大。
- 他地域展開
 - ー尾鷲商工会議所の自立化、岡崎CCM(コラボキャンパス三河)立ち上げ開始。



グロービス名古屋校での
インターンフェア

他地域展開もいよいよ本格化。東海のインターンプラットフォーム形成を目指す。

13

37

社

受入企業
(のべ)

29社

55

名

インターン
学生数

44名

25

大学

授業等
連携大学

17大学

- 企業開拓・サポート方針
 - ー岐阜・愛知県企業、地場産業企業を中心に新規企業開拓を推進
 - ーインターン運営委員会(仮称)の設置
- 大学連携
 - ーゼミとの連携の推進などによる大学/教員推薦制度の確立
 - ー岐阜大学と連携したインターンシップ教育白書の作成
- コーディネーター人材の育成と、ノウハウの他地域移転支援
 - ーコーディネーター育成プログラム開発、社内研修によるブラッシュアップ
 - ー長野県上田市など他地域での事業導入支援
 - ーETIC、地域コーディネーター養成講座の枠組みを活用したコーディネーター育成のサービス化
- 他団体と連携を通じた事業インパクトの拡大
 - ー東海インターンプラットフォームの立ち上げ

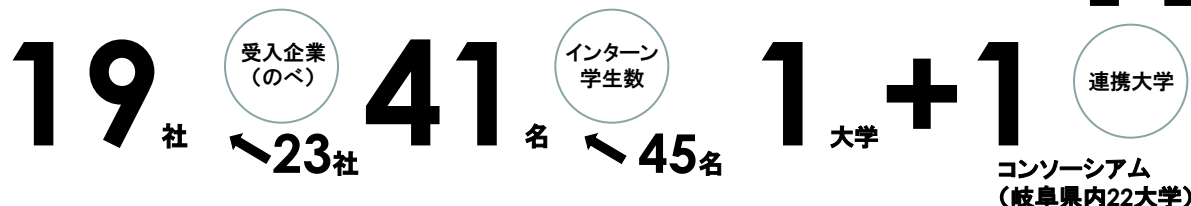


複数コーディネート団体で
「地域仕事づくりチャレンジ
大賞東海予選」を開催

地域協働型インターン・学生ボラネット

岐阜大学、岐阜県との連携をより強く。
岐阜大学の重層的チャレンジ支援を担う。

12



- 岐阜大学の重層的チャレンジの中核を担う。
 - ー地域リーダーを育むプログラムとして岐阜大学にて正課化。
 - ー「学生ボラネット」「地域活性化システム論」など多角的なチャレンジ支援。
- 地域への愛着を生むプロジェクトの創出
 - ー地域密着型プログラムとして、地域おこしの現場を受け入れ先の中心に。
 - ーホンキ系インターンだけでなく、東北震災インターン参加、学生によるまちおこし団体の立ち上げなど学生のネクストチャレンジをより広範囲で数多く生み出す。
- 新規企業開拓
 - ー岐阜県事業として実施。岐阜県を支えるモノづくり成長産業でのインターンをスタート。



社会人基礎力育成
グランプリにて岐阜大学
チームが奨励賞を受賞

大学の教育目標にカスタマイズしたプログラム開発。特色を生かし連携展開を目指す。

13



- 参加学生の拡大
 - ー岐阜大学との連携実績を通じ、より幅広い学生への訴求を拡大。
 - ーコンソーシアムを活かした県内大学での説明会／実施報告会の開催。
 - ーインターンのネクストチャレンジを創発し、地域リーダーのロールモデルとなる学生を育む。
- 大学連携・共同企画の推進
 - ー大学の教育目標に合わせたプログラム開発。
 - ー学生、企業へのアンケートを実施。学生の自己評価、職業観、地域への意識などを調査分析し、実践学習による教育効果を検証する。
- 学生、受入企業・団体によるコミュニティ形成
 - ー学生：学生サポート、OBOGとの接点作りなどタテヨコの関係作りを強化。
 - ー受入企業・団体：定期的な勉強会、メールニュースの配信



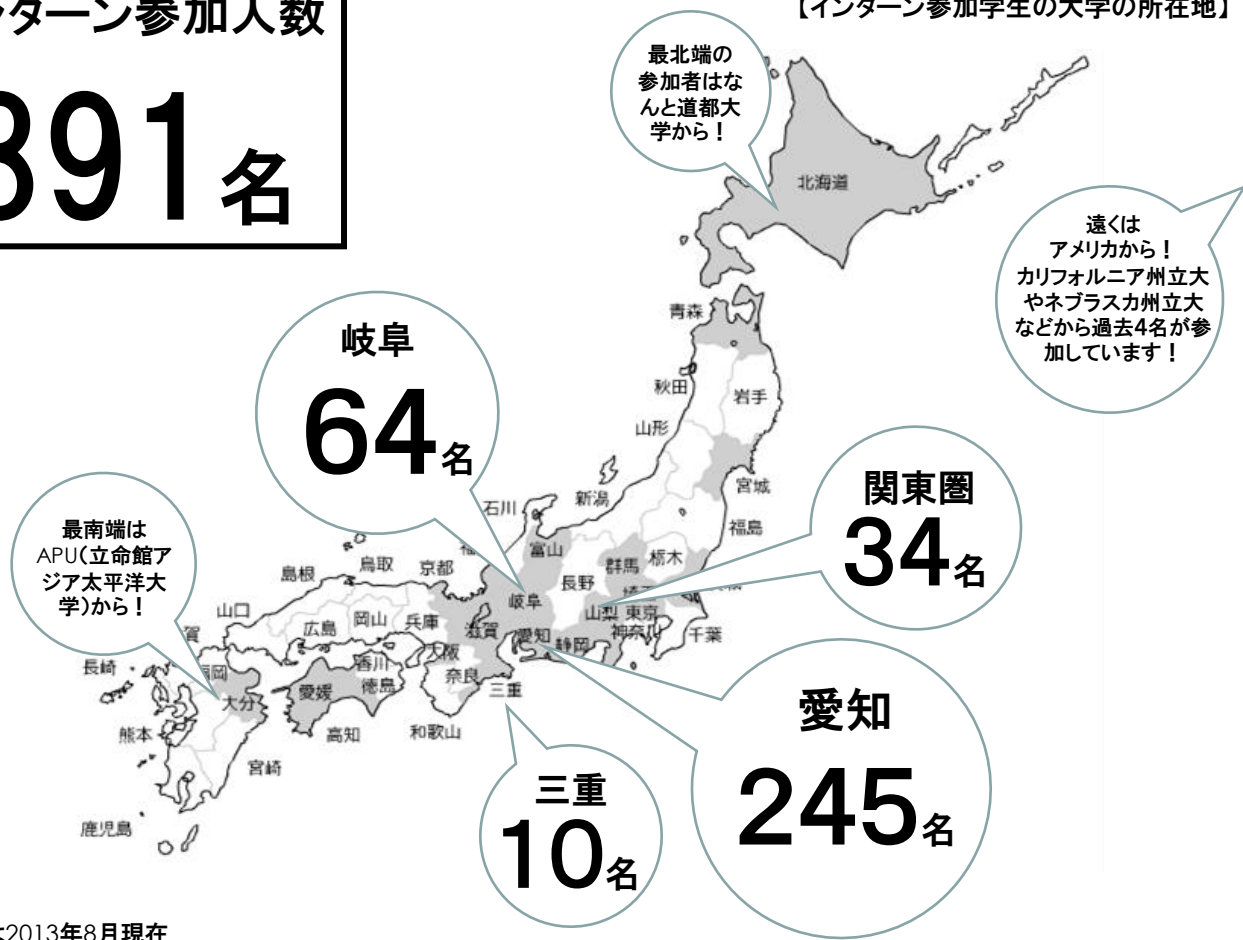
郡上エリアなど
受入企業の範囲も拡大

インターンシップのこれまで

インターン参加人数

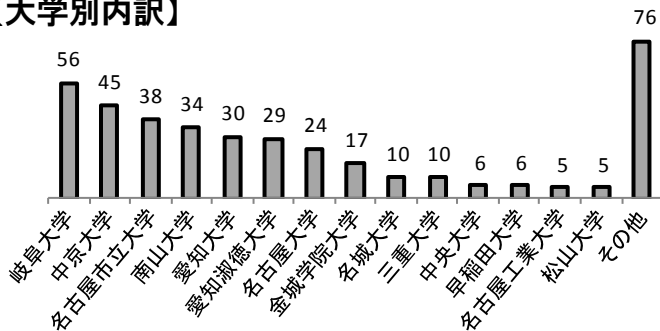
391名

【インターン参加学生の大学の所在地】



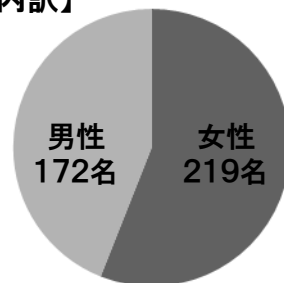
※数字は2013年8月現在

【大学別内訳】



参加学生数ナンバー1は岐阜大学。愛知では、中京大学／名古屋市立大学／南山大学／愛知大学／愛知淑徳大学から多くの学生が参加している。関東圏からの参加学生も増加。

【男女別内訳】



全体として女子学生の参加が増えているものの2012年度については、男女比はほぼ同数。地域協働型は男子学生の参加数が伸びている。

主要な大学でインターンOBOGによる「インターン・コミュニティ」が継続している中で、これまで届いていなかった大学にも声を届けられるようになり、参加学生が増えるようになった。また参加募集イベント自体も、OBOGが中心となって運営し、OBOGの体験談を伝えるプログラムも定着。よいモデルとなる学生に憧れてインターンをする学生が増えてきたように感じる。

新規事業領域 (就職/採用支援)

就職・採用支援の新たな事業開始。 事業化の具体的な方向性を見据える1年。

12

■逆指名型求人フェアの継続・拡大実施

逆指名型求人イベントは前年度に引き続き岐阜県庁、岐阜県産業経済振興センターと連携し6月・12月の2回開催。のべ30社、学生42名が参加し、2名が内定。

■日本仕事百貨との連携

月間50万PVを有する転職支援サイト「日本仕事百貨(旧称:東京仕事百貨)」と連携を実施し、地域の魅力ある中小企業の右腕人材の確保を支援。

■『岐阜「中小企業と若者」就職白書』発行

岐阜地域の「中小企業と若者」に関する調査研究プロジェクト。第一弾として、学生の就職活動の実態を調査。約80%が中小企業を就職の対象に考えていることや学生が使用している就活ツールと企業の発信している情報にミスマッチがあることが浮き彫りに。

■中小企業の魅力発信事業開始

岐阜県からの委託事業として「中小企業魅力発信事業」を実施。H25年2月に、県内の魅力ある中小企業を紹介する冊子『キミはまだ99%の会社を知らない ~オモシロ中小企業26選~』を発行し、県内全てと愛知県の一部大学、県内一部高校に配布。学生と一緒に取材し学生の視点で魅力を伝えた。

生きるように働く人の仕事探し
日本仕事百貨



『岐阜「中小企業と若者」就職白書』



外部機関との連携をより強化。 自立化を目指しさまざまな打ち手に挑戦

13

■若者が選ぶ魅力的な会社100選事業を開始

昨年に続き、県内企業の情報発信の事業化に向けて、大学生を中心とした若者が魅力的な会社を選び、取材・情報発信をおこない、冊子とWEBサイトにて発信、企業の採用力強化としてブランディング価値創出をめざす。

■企業支援機関、金融機関との連携

企業とのネットワーク拡大のため、外部機関との連携を強化。県内の商工会連合会や信用金庫に魅力的な会社の推薦や事業案内の協力を依頼。

■企業への提案商品総経

昨年度の「日本仕事百貨」との事業提携に続き、(株)マイナビとも連携予定。採用に課題を持つ企業への提案力を高める。

■白書第2弾/第3弾を発行予定

第2弾として採用に関する中小企業の実態や課題にせまる白書を、9月発行を目的に制作中。また第3弾として「中小企業での人材育成/定着」をテーマにした白書の制作を予定。



岐阜の若者が選ぶ100社を一挙ご紹介。

マイナビ 2015

新規事業領域 (創業支援・ファンドレイズ)

小口助成「地域若者応援ファンド」立ち上げ。 ファンドレイズ商品の開発に挑戦。

12



■新しい公共「地域若者応援ファンド」の立ち上げ

地域をよくするために、チャレンジをしようとする若者を対象にした小口助成制度「地域若者応援ファンド」(通称:ビーンズファンド)を立ち上げ、11月に第一回助成先として2団体を選出。

■「地域課題の解決×ビジネス」をテーマにした連続セミナーの開催

中間支援機関、NPO、ビジネスマン、金融機関ら幅広い対象への研修会を実施。西濃グループの田口社長やGLOBIS講師の村田氏、IIHOE河北氏など、幅広い業界から講師にお越しいただき、岐阜市/関市の2会場で各4日間の本格的なプログラムを開催。

■G-netへの賛助会員/寄付の本格募集

OBOGはじめ広く市民全般への賛助会員(個人・法人)の募集、拡大。寄付付きの印刷商品やギフトなど、企業と連携したファンドレイズを企画。

■ファンドレイズイベントの開催

H25年2月、G-netの活動に賛同いただいた歌手の加藤登紀子さんによるファンドレイズコンサートを開催。学生に加藤氏自身のチャレンジを熱く語る場面も。

■東海若手起業塾は第5期を終了。

引き続き、運営委員として参画し、起業家を個別支援。岡崎市でのソーシャルビジネス振興事業運営委員・講師として参画。



加藤登紀子さんコンサート



寄付付きの印刷
「キフプラス印刷」

小口助成ファンド、本格始動。 寄付付き商品や自動販売機へも展開。

13

■「地域若者応援ファンド」本格始動、助成対象事業の実施

H24年11月に実施した第一回助成で選ばれた2団体が、7月までに事業実施。ファンド資金を集めるため、寄付付き自動販売機の設置を開始。現在、岐阜市、大垣市に計4台が設置されている。秋ごろを目途に第二回助成を予定。

■寄付付きギフト「若者チャレンジ応援ギフト」販売開始

自主財源の確保に向けた賛助会員制度や、寄付付き商品の販売を開始。インターン受入れ企業と連携した商品を取り扱う。お中元、お歳暮などギフトとしての認知度アップをめざす。

■東海若手起業塾は第6期も継続参加。

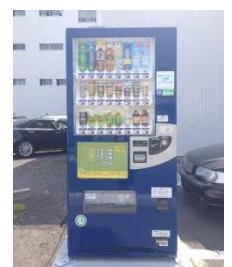
H25年度も引き続き運営委員として参画し、起業家の個別支援をおこなう。本年度から、G-net副理事・南田がコーディネーターとして参加。

■G-netへの賛助会員/寄付の本格募集

法人会員の獲得に向け、過去インターン受入れ企業も含めてあらたな関係構築を模索。コミュニティ強化も。



G-net若者チャレンジ応援ギフト
※さんが半額インターンした山川醸造のたまり醤油も販売中!



寄付付き自販機

今般、NPO法人G-netのご依頼により、同法人の活動について評価いたします。

評価の観点

地域経済を次の世代に良い形で継承するためには、地域内の企業活動が活発であり、地域内企業が繁栄して、雇用を増やしながらか、長生きすることが求められます。中小企業の選別が激化する時代において、事業の社会性も収益性も高め、企業が繁栄して長生きするためには、各企業は、(1)潜在的な社会的ニーズをすばやく把握し、(2)自社や連携先の技術により製品化して、(3)そのニーズに対するオンリーワンの供給源になることが求められます。

活動評価

(1)長期実践型インターンシップ

長期実践型インターンシップの成功事例は、既にマスコミで取り上げられて注目を集めています。G-netでは、インターンシップのストーリーと、インターンシップが企業に与えた効果の評価分析を区別して公表しています。これにより、インターンシップ導入企業において、生産性が向上したり、経営者が成長したり、経営に変化が現れていることが明確になっています。

(2)魅力ある中小企業に関する情報発信

魅力ある中小企業に関するG-netの情報発信は、白書の刊行に代表されるように、学生が、自分で判断して優良な企業にアプローチできるように工夫されています。

(3)地域内連携の促進

G-netの活動は、地域における産(企業)・学(大学、学生)・公(自治体)・民(G-net以外のNPO)・金(地銀、信金)の連携を促進しています。これにより、地域内の主要機関・団体との情報交流が進んでいます。

いずれの活動も、情報メディアの活用や人的ネットワークの向上と拡大、企業における新規価値開発をもたらす、ビジネスチャンスの発見、新しい取引関係の確立、新規ビジネスの開発などの効果をもたらしています。

今後の活動への提案事項

G-netの諸活動の効果を更に高めるために、以下の事項を提案します。

インターンシップ以外の、中小企業に関する情報発信において、どのような成果があったのかをフォローして下さい。情報発信の結果として企業側にどのような効果があったのかを調査して公表することは、事業の信頼性を高めます。

長期インターン生とインターンを受け入れた企業の経営者を招いて成果発表会を実施してはいかがでしょうか。歓談の中で、インターンシップ制度の改善点を指摘していただくことも可能ですし、何よりもインターン生の成長を承認することができます。

今後とも、G-netの諸活動が成功することを期しております。

2013年8月1日
山本尚史



山本尚史氏 プロフィール

拓殖大学教授 政経学部経済学科長
地域経済活性化・地域再生の政策について研究中。経済学博士(ハワイ大学)、公共政策学修士(プリンストン大学)、筑波大学卒業。地域経済活性化のために地元の中小企業を成長させる新手法として米国の地方自治体で実施されている「エコノミックガーデニング」をはじめとした地域の中小企業を応援する種々の取り組みを紹介している。著書に『地方経済を救うエコノミックガーデニング』

<http://www.economic-gardeners.jp/>

平成24年度 特定非営利活動に係る事業会計活動計算書

自平成24年4月1日 至平成25年3月31日

平成24年度 活動計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人G-net

(単位: 円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費	13,588,000	13,588,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	2,257,182	2,257,182
3. 事業収益		
インターンシップコーディネーター事業収益	14,060,673	
コミュニティ・ビジネス創業支援事業(中間支援事業)収益	10,165,734	
就職採用支援事業収益	8,518,800	
その他事業収益	3,095,220	35,840,427
4. その他収益		
受取利息	1,004	
雑収入	530,129	531,133
経常収益計		52,216,742
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	22,717,822	
雑給	2,194,081	
法定福利費	3,329,080	
厚生費	270,693	
人件費計	28,511,676	
(2) その他経費		
仕入	28,000	
外注費	496,190	
広告宣伝費	3,689,547	
減価償却費	650,253	
賃借料	1,069,195	
修繕費	172,812	
事務用品費	921,093	
消耗品費	1,233,288	
水道光熱費	374,848	
旅費交通費	4,002,793	
租税公課	443,935	
交際接待費	120,309	
保険料	1,076,906	
通信費	618,041	
諸会費	47,415	
車両費	376,227	
新聞図書費	243,646	
地代家賃	1,797,238	
会議費	435,595	
寄付金	57,613	
研修費	84,421	
出演・設営費	2,960,990	
雑費	686,436	
支払利息	373,221	
その他経費計	21,960,012	
事業費計		50,471,688

2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	799,438		
法定福利費	129,084		
厚生費	17,527		
人件費計	946,049		
(2) その他経費			
広告宣伝費	20,405		
減価償却費	42,280		
賃借料	16,094		
修繕費	9,625		
事務用品費	55,882		
消耗品費	44,108		
水道光熱費	24,373		
旅費交通費	18,338		
租税公課	98,665		
交際接待費	3,433		
保険料	8,688		
通信費	31,618		
諸会費	3,081		
車両費	8,378		
新聞図書費	10,113		
地代家賃	116,858		
会議費	6,743		
寄付金	3,681		
研修費	760		
出演・設営費	649		
雑費	39,100		
支払利息	24,268		
その他経費計	587,140		
管理費計		1,533,189	
経常費用計			51,887,956
当期経常増減額			328,786
Ⅲ 経常外費用			
1. 固定資産除却損		10,310	
経常外費用計			10,310
当期正味財産増減額			318,476
前期繰越正味財産額			451,840
次期繰越正味財産額			770,316

平成24年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成25年3月31日現在

平成24年度 貸借対照表

平成25年3月31日現在

特定非営利活動法人G-net

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,917,373		
未収金	19,610,893		
棚卸資産	371,800		
前払費用	131,541		
仮払金	10,608		
未収入金	284		
流動資産合計		28,042,499	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
車両運搬具	123,929		
什器備品	32,674		
リース資産	735,000		
有形固定資産計	891,603		
(2)投資その他の資産			
出資金	200,000		
投資その他の資産計	200,000		
固定資産合計		1,091,603	
資産合計			29,134,102
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	10,000,000		
未払金	2,803,421		
預り金	229,410		
仮受金	240,003		
流動負債合計		13,272,834	
2. 固定負債			
長期借入金	14,319,202		
リース負債	771,750		
固定負債合計		15,090,952	
負債合計			28,363,786
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		451,840	
当期正味財産増減額		318,476	
正味財産合計			770,316
負債及び正味財産合計			29,134,102



NPO法人G-net

〒500-8844

岐阜市吉野町6-2 ブラザービル2階

Tel.058-263-2162 Fax.058-263-2164

URL: <http://www.gifist.net>

URL: <http://www.honki-i.net> (ホンキ系インターン)

【お願い】

2012年度より、賛助会員制度(※別紙参照)を本格的に運用しております。

G-netのサポーターとして、個人・法人問わず多くの方々に支えていただけますよう宜しくお願いします。